

令和6年4月21日

神戸市手話サークル連絡会会員各位

神戸市手話サークル連絡会
神戸市みんなの手話言語懇談会委員

手話サークル活動などについてのアンケートのお願い

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃より神戸市手話サークル連絡会(以下「市サ連」という。)の運営にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

市サ連は昭和54年に当時活動されていた3サークルで結成され、今年で45年目になります。神戸ろうあ協会手話派遣センターが設立されるまでは聴覚障害者や手話への理解が乏しい社会の中、講演会などの手話通訳を市サ連の会員が担い、学校などへの手話講座講師をろう者と共に市サ連の会員が担っていました。そして現在に至るまであらゆる場面で手話の啓発活動をしています。

さて、この度、市サ連の会員の皆様に手話サークル活動などについてのアンケートをお願いいたしたく思います。アンケートから市サ連、各サークルのあり方や活動、啓発について、また個々のサークル員において長く活動する秘訣や手話の技術が上達できるヒントなど考察できればと思っております。

ご多用のところ恐縮ですが、ご理解、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、アンケートの取扱いについては個人が特定されないことがないよう集計作業をいたします。

アンケートの回収については令和6年7月末をめどに各サークルでまとめていただき、運営委員会の時に安田までご提出をお願いいたします。

敬具

市サ連会員における手話サークル活動などについてのアンケート

(留意点)

- この調査は、あなたの自由意思に基づきます。回答したくない質問項目があれば、途中であっても止めたり、回答したくない質問項目を飛ばして次の質問に移っていただければと思います。
- このアンケートに協力する／しないが、あなたのこれからは影響することはありません。
- このアンケートに回答することで、あなたが特定されることはありませんのでご安心ください。
- アンケート結果は、この調査の目的以外には使用いたしません。

1. あなたが手話を始めた年を教えてください(いずれかに1つだけ○をつけてください)

昭和30～34年 ・ 昭和35～39年 ・ 昭和40～44年 ・ 昭和45～49年

昭和50～54年 ・ 昭和55～59年 ・ 昭和60～64年 ・ 平成1～4年

平成5～9年 ・ 平成10～14年 ・ 平成15～19年 ・ 平成20～24年

平成25～29年 ・ 平成30～令和5年

2. あなたが手話を始めたきっかけを教えてください(自由記述)

3. (令和6年4月1日現在)あなたのサークルでの活動歴を教えてください (いずれかに1つだけ○をつけてください)

～5年 ・ 6～10年 ・ 11～15年 ・ 16～20年 ・ 21～25年

26～30年 ・ 31～35年 ・ 36～40年 ・ 41年～

4. サークルに入会した動機を教えてください(自由記述)

5. サークルでどんな担当をしていましたか(すべて○をつけてください)

会長 ・ 副会長 ・ 事務局 ・ 会計 ・ 広報 ・ 学習 ・ 例会

その他(自由記述)

6. あなたはサークルでどのような地域活動をしていましたか

(現在担当しているものもすべて○をつけてください)

①区内 【あなたが所属しているサークルの区でお答えください】

区民まつり (ステージ出演 ・ 出店 ・ ステージ通訳 ・ その他)

地域の催し(ステージ出演 ・ 出店 ・ ステージ通訳 ・ その他)

手話講座(大人向け ・ 子ども向け ・ 学校 ・ その他)

友愛訪問

その他(自由記述)

②市内

神戸まつり(パレード参加 ・ ステージ出演 ・ 出店 ・ ステージ通訳 ・ その他)

身体障害者スポーツ大会(当日要員 ・ 手話通訳 ・ その他)

身体障害者福祉大会(当日要員 ・ 手話通訳 ・ その他)

耳の日記念大会(実行委員 ・ 当日要員 ・ 通訳 ・ その他)

手話のつどい(実行委員 ・ 当日要員 ・ 通訳 ・ その他)

兵庫県ろうあ者大会(実行委員 ・ 当日要員 ・ 通訳 ・ その他)

兵庫県ろうあ者新年大会(実行委員 ・ 当日要員 ・ 通訳 ・ その他)

全国ろうあ者大会(実行委員 ・ 当日要員 ・ 通訳 ・ その他)

近畿ろうあ体育大会(実行委員 ・ 当日要員 ・ 通訳 ・ その他)

2006年のじぎく国体

聴覚障害者文化祭(当日要員 ・ 出店 ・ 通訳 ・ その他)

手話講習会講師

その他

7.あなたがこれまで受講された手話講習会を教えてください(すべて○をつけてください)

手話奉仕員養成講座(初級 ・ 中級 ・ 上級)

手話奉仕員養成講座(入門課程 ・ 基礎課程)

手話奉仕員養成講座(神戸市手話通訳登録試験受験前、必須講習会(5回))

手話通訳者養成講座 基本 ・ 応用 ・ 実践

手話通訳者養成講座 I ・ II ・ III

その他

8.全国手話検定試験(社会福祉法人全国手話研修センター実施)を受験したことがありますか

(すべて○をつけてください)

ない ・ ある

↓(ある)方は質問①へ

① 5級 ・ 4級 ・ 3級 ・ 2級 ・ 準1級 ・ 1級

↓
(ない)方は質問10へ

9.あなたが手話通訳試験(神戸市登録試験、全国統一試験、手話通訳士試験)を最初に取得した年を教えてください(いずれかに1つだけ○をつけてください)

昭和30～34年 ・ 昭和35～39年 ・ 昭和40～44年 ・ 昭和45～49年

昭和50～54年 ・ 昭和55～59年 ・ 昭和60～64年 ・ 平成1～4年

平成5～9年 ・ 平成10～14年 ・ 平成15～19年 ・ 平成20～24年

平成25～29年 ・ 平成30～令和5年

10.日頃、あなたがサークル活動で思うことや手話の普及啓発、手話の上達の秘訣など
ご自由にお書きください

11.現在、手話通訳者の高齢化、不足が大きな課題になっています。何が問題なのか？どうすればよい
のか？あなたのお考えやご意見を自由にお書きください

最後にあなたご自身のことについて、差し支えなければご回答をお願いします。

それぞれの質問で当てはまるものに○をつけてください

【性別】 男性 ・ 女性 ・ 答えたくない

【年齢】 19歳以下 ・ 20～24歳 ・ 25～29歳 ・ 30～34歳 ・ 35～39歳 ・ 40～44歳
45～49歳 ・ 50～54歳 ・ 55～59歳 ・ 60～64歳 ・ 65～69歳 ・ 70歳以上

【最終学歴】 中学校卒 ・ 高校卒 ・ 専門学校卒 ・ 短期大学卒 ・ 4年制大学卒
大学院修了 ・ その他

【結婚の有無】 結婚していない ・ 結婚している ・ 過去していた ・ その他

【子育ての経験】 ない ・ ある(現在、進行中も含む)

【介護の経験】 ない ・ ある(現在、進行中も含む)

【職業について】 過去、または現在の職業を教えてください

会社員 ・ 自営業(フリーランス、個人事業主を含む) ・ 公務員 ・ その他団体の職員
パートやアルバイトなど ・ 専業主婦(主夫) ・ 学生 ・ 無職 ・ その他

【手話通訳活動の経験】 過去、または現在、手話通訳活動をしていました、していますか
はい

↓(はい)の方へ

手話通訳者になろうと思ったきっかけを教えてください(自由記述)

いいえ

↓(いいえ)の方へ

手話通訳者になりたい、興味などありますか(自由記述)

質問は以上です。ご協力に感謝いたします。

自由記述(抜粋)

2. あなたが手話を始めたきっかけを教えてください 275件

◎ 手話に興味があった 88件

- ・子どもの頃から手話を学びたかったが、スマホなどない時代で調べ方がわからなかったが、スマホで調べることができるようになり申し込んだのがキッカケです。
- ・湊川公園おまつりの時声は聞こえないけど何か話している様子を見て興味があったから。
- ・テレビで手話ニュース845を何気なく見ている、那須さん(ろうキャスター)の手話に衝撃を受けた。

◎ 広報紙・講座案内を見て 49件

- ・神戸広報に入門講座がのっていて、それを見たのがきっかけ。
- ・区役所のホームページで手話教室が開催していると知ったからです。
- ・図書館で手話入門のチラシを見かけた。

◎ 身近にろう者がいた 69件

- ・子どもが通っていた幼稚園の聞こえないお母さんと話がしたいと思ったのがキッカケ。
- ・両親がろう者であり、自分の言語であるから。
- ・地域の行事でろうのご夫婦に出会い、そこで簡単な手話をいくつか教えてもらったこと。

うち仕事で必要・職場に聴覚障害者がいる 31件

- ・仕事でろう者とのコミュニケーションが必要になったから。
- ・特別支援学校の先生を目指しているの、学校現場で活かしたいと思って始めました。
- ・勤務先のレストランにろう者の方が時々ご来店くださるので、その方ともコミュニケーションがスムーズにとれたら良いなと思ったから。安心してご来店していただきたいと思ったので。

◎ 家族・知人が手話を学んでいる 27件

- ・小さい時に母が手話教室に行くのについていき、その頃から手話に興味を持ち始めました。
- ・20代の頃、友人が2人学び始め、誘われましたが都合でいけなかった。今思えば後悔のみ！早く始めるべきだと思う。友人2人の学びの様子はたのしそう、子育てや仕事でチャンスを失った。あの若い時が何よりのチャンスだったとつくづく思ったが、3年前にスタートした。
- ・家族、友人に聞こえない人がいた。

◎ 時間に余裕がある 22件

- ・早期退職で時間ができた、新しい言語を学びたいと思ったので。
- ・子供が小学校高学年になり、手がかかからなくなったので何かボランティアをしたくて始めました。
- ・以前から手話に興味があり、自分の時間がもてるようになったので始めました。

◎ 中途失聴のため 5件

- ・自身の耳が片方のみ聞こえ片方は聞こえないため今後の生活のため手話を学びたいと思いました。

4. サークルに入会した動機を教えてください 274件

◎ 手話を忘れないため・ろう者と手話で話せる場・もっと手話を学びたい 349件

- ・入門基礎講座を修了した時点で手話でコミュニケーションが取れる状態ではないと思ったので、継続して手話と関わることができるサークルで手話を身につけたいと思ったため。
- ・入門講座中に淡路のふくろうまつりに参加したりして、ろう者との交流が楽しかった為入会した。
- ・手話をもっと学びたいと思った。ろうの方と接し、文化も知りたいと思った。
- ・手話の入門、基礎が終わり、このままでは忘れてしまうと思い、サークルに入会しました。
- ・手話講座を終えても手話をもっと学びたいと思い入会しました。
手話やろう者の人との関わりから自分の社会が広がる。

◎ ろう者からの誘い・手話サークルに知人がいた 40件

- ・職場でサークルに入っている方に進めていただいた。
- ・入門講座終講時に講師から「このまま終わるのではなく必ず地元の手話サークルに入って聞こえない人と交流して下さい」と繰り返し聞いたから。

◎ サークルの雰囲気・例会日など条件が合った 20件

- ・自分の都合とサークルの曜日があったので。
- ・入門課程が終わって、サークル見学に行った時に部屋の雰囲気が明るかったことと、先輩方が次々に声をかけてくださり、見学している間、過ごしやすかったこと。

◎ 公的機関の紹介 8件

- ・SNSで「習いたいけどどこに行けばいいかわからない・・・」と発言したら、知らない人から「とりあえず市役所か区役所でサークルを紹介してもらってみては？」とおすすめていただきました。
- ・手話を学べる場を探していて、広報にのっていたから。

◎ 独学の限界 5件

- ・NHKのTV放送「みんなの手話」や色々見ながら、勉強しようと始めた頃、なかなか見るだけでは覚えることができないので。
- ・耳が聞こえない人と話したいが、手話を1人で勉強できないから。

◎ ボランティア・社会貢献したい 5件

- ・オリンピックでボランティアをしたかったから。
- ・手話を多少知っているレベルでは意味がないと感じた。ろう者とコミュニケーションがとれるよう、時間のあるうちから準備すれば、老後でも社会貢献できるかもしれないと考えたため。

10.日頃、あなたがサークル活動で思うことや手話の普及啓発、手話の上達の秘訣など 198件

◎ 運営や学習で思うこと、上達の秘訣や意見について 136件

- ・手話サークルはたんに手話を学ぶ場ではなく、活動を通して聴覚障害に関わらず人権について考えることのできる貴重な場だと思っています。地域の人々が集うこともとても意義があると思います。
- ・サークルに参加しているろう者が少ない。また高齢化が進んでいる。聞こえる人同士音声言語で話してしまい、ろう者が参加できていないときがある。
- ・サークルは手話を習得したい人、ろう者と会話を楽しみたい人、通訳者の資格取得を目指す人、通訳経験の豊富な人と様々な人がいるけれど、目指すのは聞こえない方々も聞こえる物も一緒に学び、楽しむ場所だと思う。その場所づくりのためにサークルで話し合うことは大切だと思う。聞こえない人の行事や学習会に積極的に参加することも手話の上達につながると思う。
- ・自身のサークルでは感じませんが、他のサークルではいろいろな役割が負担になると聞いています。特に仕事を持って人たちはそのようです。その為サークルをやめる人も出て若手の育成が難しそうです。手話上達に秘訣はなくて、とにかくやり始めたら3年は続けること、焦らないこと、ろう者の世界を知ること、ろう者に会い続けること、手話を楽しむこと。
- ・以前は各サークルの同士の結びつきが深かったように思います。最近はサークル活動を行う人が少ないと思います。サークル参加せず、依頼されて通訳のみを受けている人が多い。
- ・やはりろう者の方と交流することが一番の上達の近道だと思います。運営など大変なことが多いと思うが、少しでも役員の方の業務が少なくなるように工夫できればよいなと感じています。
- ・近年、サークルに足を運んで来られるろう者が減少し、その魅力的な手話表現に直に触れコミュニケーションをとる機会が減った。サークル活動でろう者との交流を深め通じ合える喜びや、多様な表現を学ぶ経験無くしてはなかなかサークルへの定着は難しく、一時的に会員が増えても止めていく人は多いのではないかと。
- ・聞こえない方の参加が少ない。地域活動を中心にするか、通訳者を育てたいのかわからない。入門終了者がサークルに入れる条件がおかしいと思う。市サ連を通して他サークルの見学(見学週間)や協力ができたらいいと思います。
- ・会話の中で手話が学べるので楽しいし覚えやすい。ろうの人の生活の話や普段感じていることを聞ける。
- ・サークルにはろう者も参加されるので、声を絞って手話で会話しようと何度も言われているのに、サークル員同士だといつ声を出してしゃべってしまう。
手話の上達の秘訣は、ろう者と手話で会話することにつきると思う。
- ・サークル活動においてたくさんの方とコミュニケーションを取ることが一番の上達方法だと思います。なかなかうまくならないのでジレンマがありますが、手話ニュースや手話に関する動画を観ることによってコツコツ身につけるしかないかなあと思っています。
- ・ろう者の方々と多くふれ合う事が(コミュニケーションを保つ事が)一番の上達法だと思います。
- ・サークルは養成の場ではないのですがどうしても技術にこだわる人が多いような。養成はあくまで専門的にしていただきサークルはろうの人と聞こえる人の交流できる場として大切だと思います。お互いにいろいろ気づかされます。聞こえる文化と聞こえない文化が会う場です。
- ・手話サークルはたんに手話を学ぶ場ではなく、活動を通して聴覚障害に関わらず人権について考えることのできる貴重な場だと思っています。地域の人々が集うこともとても意義があると思います。

◎ 普及啓発について 18件

- ・小学校や中学校での PTA の学年行事に無料で手話教室をしたらと思う。
- ・地域のイベントなどに参加して手話サークルの存在を知ってもらうことがまずは大切だと思います。
- ・もっとSNSを活用してほしい。区をまたいでの例会見学。
- ・手話に触れる機会をたくさん作って知ってもらう。例えば小学生だけではなく、大人向け手話教室、ミニ講座を開催する。手話で話せる場所を増やす。知ってもらったうえで、興味を持ってもらい講座を受けてもらう・・・に繋げる。サークルに入っていないといろいろな情報はわからない。年に1度でも、そんな場を設けたらいいと思う。

11.現在、手話通訳者の高齢化、不足が大きな課題になっています。何が問題なのか？どうすればよいのか？あなたのお考えやご意見 194件

◎ 手話通訳者の処遇について 57件

- ・通訳者の身分保障が不十分なので若い人が職業として生活できない。資格が生かせないのは残念。
- ・手話通訳だけで生活していただくだけの収入がないため、若い人の職業選択肢となりにくい。
若い頃から手話に接する機会が少ない。自分の生活に余裕ができてから手話を始める人が多い。
大学や高校での授業カリキュラムに取り入れられれば、若い通訳者も増える可能性があると思う。
- ・通訳者を目指す年齢層が高い。資格取得しても仕事との両立困難なため活動範囲が限定される。
子育てや親の介護で活動できない。

◎ 教育機関への働きかけについて 41件

- ・若い世代に向けて手話通訳者について親しみやすく学べる(知ることができる)機会を積極的にいっていったり、中学校や高校、大学などの授業にもっと取り入れてもらえるような働きかけなどをするのもいいのではないかと思います。
- ・言語としての認識が広がるよう、教育(幼、保から)の場を通して、子供が知るようになれば、裾野が広がるのではないかと思います。実際私自身手話を認識するようになったのは、大人になってからで、機会をロスしていたと思います。
- ・若い人に手話について認知度を高める。もっと手話の広報をすべきだと思います。

◎ 養成のしくみについて 40件

- ・学生や仕事をもっている人が受けやすい土、日等に講座を開くのはどうでしょうか。
入門や基礎を終えた方の中で、仕事のために手話サークルに来れない方が数名いました。
- ・手話通訳者は、専門職としての位置づけがなく職場も少ない。ボランティアの認識が社会に広がっている。本来手話通訳者の養成や設置の責務は国や地方自治体にあると思います。そのための予算付けが必要だと思います。きこえない人きこえにくい人々への情報保障はあたりまえに保障されるべきと考えます。手話通訳者の高齢化や人員不足はいままで個人の努力や善意に任せてきた。行政施策のの不備だと思います。思いきった予算をつけ養成と設置を拡大して欲しい。
- ・有料でもいいので、養成講座を何回でも受けさせてほしい。

◎ 啓発の仕方について 29件

- ・「手話通訳」の認知度がまだ低いと思う。福祉ボランティアの延長と考える方が、今だに多いと感じる。そのため収入面で他の職種あるいは他言語通訳との差が大きい。仕事として成り立てば若い担い手も増えるのではないかと考える。※実際の通訳現場で若い世代から「手話通訳はカッコいい。どうしたらなれるのか」ときかれることは多い。
- ・サークル活動を SNS などで発信し、若い方が少しでも手話に振れやすくなるようにしていく。
- ・手話通訳の仕事についてあまり知られていないことや給料があまり高くないことが関係していると思います。最近はドラマやアニメなどで耳が聞こえない役などが個人的に増えているように思います。それを見て手話に興味をもち若者もちょっとずつだとは思いますが増えているように感じます。なので、そういったテレビなどのメディアで手話通訳者のことなどを発信し続ければ良いと思います。

◎ 手話サークルのあり方について 23件

- ・通訳者を取り巻く環境も変わっていると思いますが、一番大きいのは若いろう者の考え方、生き方の変化ではないかと思っています。今までのように手話サークルありきのろう者のコミュニティだけでは新しいコミュニケーションツールの活用をもっともっと積極的にしていくべきだと思います。そのために、ろう児教育の現場での活動も重要だと思います。(未来を担う子供たちにも一緒に考えてもらう)
- ・若いろう者/難聴者が協会やサークルに参加していないため世代を超えて実践的な学習ができる場が少ないのではないかと思います。

◎ 手話の学習について 14件

- ・これまで通りの地道な活動はとても大切だと思いますが、地位向上を目指し、プロフェッショナルの養成と地域活動の 2 本立てが必要だと思います。
- ・入門基礎終了後、継続的な学習機会が足りないこと。
- ・若い手話通訳者を育てていく必要があるので、若い方が興味を持つような、例えばイベント等を多くする。きっかけとしてドラマでも良いと思う。若い人が手話を勉強できる環境をととのえる。仕事をしながら学べる場がほしい。

R6年度実施 手話サークル活動についてのアンケート

令和7年10月20日
神戸市手話サークル連絡会

回答者の年齢と男女

	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	無記入	総計
女性	1	2	3	1	2	15	24	33	37	44	50	65	8	285
男性	1					1			5	2	3	8		20
答えたくない					1						1		2	4
無記入										1			13	14
総計	2	2	3	1	3	16	24	33	42	47	54	73	23	323

手話を始めた年とサークルの活動歴

	～5年	～10年	～15年	～20年	～25年	～30年	～35年	～40年	41年～	無記入	総計
昭和30～34年					1						1
昭和40～44年	2										2
昭和45～49年	1	1								1	3
昭和50～54年		1							4	1	6
昭和55～59年	1				2		2	1	3		9
昭和60～64年	1			1		3	2	4		2	13
平成 元～ 4年	3	2	2		1	2	6	1		1	18
平成 5～ 9年		2			5	13	1		1		22
平成10～14年	2	1	2		22	4				1	32
平成15～19年	3	1	5	8	8						25
平成20～24年	1	1	17	1	1					1	22
平成25～29年	11	28	5	2							46
平成30～令和5年	103	9	1							4	117
無記入		1	3							1	5
その他	1					1					2
総計	129	47	35	12	40	23	11	6	8	12	323

登録手話通訳活動資格の取得した年と回答時の年齢(色付きセルは男性2名)

	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	無記入	総計
昭和30～34年										1				1
昭和45～49年											1			1
昭和50～54年											2	1		3
昭和60～64年											1	1		2
平成1～4年											1	3		4
平成5～9年								1		1	1	5	1	9
平成10～14年										2	4	2		8
平成15～19年									2	2	7	6	2	19
平成20～24年						1	1	1	1	1		3		8
平成25～29年							1				1	1		3
平成30～令和5年			1	1		2	3	3	6	8		2	2	28
総計	0	0	1	1	0	3	5	5	9	15	18	24	5	86

登録手話通訳者でない人の回答時の年齢とサークル活動年数(色付きセルは男性18名)

	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	無記入	総計
～5年	2	2	2		3	11	12	19	16	20	12	11	5	115
6～10年						2	4	2	5	2	6	12	1	34
11～15年								2	6	3	11	5	7	34
16～20年							1	2				6		9
21～25年							1	3	3	2	5	6	2	22
26～30年									1	2		1	3	7
31～35年												4		4
36～40年												2		2
41年～									1		2			3
無記入								1	1	3		2		7
総計	2	2	2	0	3	13	19	28	33	32	36	49	18	237

手話通訳に興味関心のある(あった)人の回答時の年齢と自由記述

	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	無記入	総計
	0	0	0	0	1	1	3	2	3	6	4	8	2	30

自由記述(抜粋)

- ・興味は大いにあるが難しさを痛感している。
- ・資格は持っていませんがチャレンジャーとして通訳させてもらっています。
- ・聴こえない方々への情報提供はタイムラグがない状況で伝えたいという思いがあり、それができるのは手話通訳者であると思う為。
- ・手話通訳士になりたいがまずはろうの方と友達になること！！
- ・やりたいですが、壁が高いと思います。挑戦意志はあります。親切なろうの方々の明るい支援が救いになっています。もちろん仲間が多いのも助けられています。サークルは大切！！
- ・自然の流れとして技術を身につけたら、それを活かそうと思った。
- ・習得した手話技術、聞こえない方に対するの理解も含め専門性を持って通訳者として関わりたいと思った。
- ・通訳としてろう者の生活に関わりたと思ったから。
- ・通訳者の数が足りないと感じたから。
- ・通訳者として少しでも活動出来ればと思い(舞台通訳等)
- ・コミュニケーションが楽しかった。仕事の延長で通訳介助に幅が広がったのみ
- ・聴こえる人と耳の不自由な人とをつなげたらいいな、と思ったから
- ・手話通訳者の必要性を感じた。手話が好き。
- ・手話サークルに入ったら通訳者を目指す流れ、雰囲気があった。自分でもなりたと思った。
- ・仕事として、サークルで活動していくうちに思いました。
- ・仕事にしたい。・ろう者との関わり・自身の社会的自立のため(資格として)手話を磨きたい、好きだから。
- ・興味はありますが、実力が伴わないです。
- ・ろうの方々ともっと近くで生の手話で交流したりせたく手話を学んだので役に立ちたいと思いました。
- ・最初は簡単な会話さえできれば十分、通訳者なんて私には難しそうなので無理・・・とっていましたが、何かの役に立てるのなら挑戦してみたいです。
- ・入門・基礎・通訳養成講座と進んで受講したのもあり、ろう者のおつき合いもあり、手話が好きになった。又、聞こえないことによる問題点も色々知り、役に立ちたと思ったから。
- ・機会があれば通訳を1度はしてみたいなと思います。通訳者養成講座Ⅰに通い始めたばかりなので学んでいくうえで、目標を見つけていきたいなと思います。
- ・若い時に始めてたら、なりたかったかもですが、今はろう者との会話を楽しんでいます。
- ・統一試験を何度か受けたが合格するに至らなかった。今はろう者とスムーズに会話を楽しみ交流を深めることに重きを置いています。
- ・興味はありました。過去形ですみません。年齢的に厳しいかなと思います。
- ・手話通訳者の方は何事にも厳しいというイメージがあります。通訳者同士の手話や聴覚に関する議論を聞いてみると、白熱して迫力を感じることがある。聴覚障害者のお役に立ちたい気持ちはあるが、自分には無理だと思った。